同　志　社　女　子　大　学

授業計画（シラバス）原稿　（2019 年度用）

授業コード	157160
科目名	Shakespeare Production Ⅲ
担当者	T.L. Medlock /辻　英子
キャンパス	今出川
開講期	通年
時間割	春学期 火曜日 ４講時, 春学期 金曜日 ４講時 秋学期 火曜日 ４講時, 秋学期 金曜日 ４講時

授業テーマ	『お気に召すまま』（*As You Like It* ）上演
授業の概要	In this class we will stage a production of the text studied in Shakespeare Production I & II, namely *As You Like It* 『お気に召すまま』, with the aim of deepening our appreciation of the play. In the practical undertaking of such a complex and ambitious task, it is absolutely necessary for participants to work together selflessly and harmoniously and to demonstrate a consistently positive and industrious spirit. This task requires great time and great physical and emotional energy. Everyone who joins must be ready to commit wholeheartedly.
到達目標	1. Develop analytical ability of dramatic literature, and appreciation of *As You Like It* in particular. 2. Develop performance skills, especially related to the dramatic expression of English (pronunciation, intonation, rhythm, irony etc.). 3. Develop other creative skills necessary to the staging of a large-scale project 4. Develop organizational and interpersonal skills. 5. Develop understanding of English poetics.
授業方法	Students participate in both general meetings and in their respective activities as cast or staff. The supervising teacher acts in an advisory role and encourages students to be independent and responsible in their activities.

各回の授業内容		準備学習等の内容
1	Tue: Review of the play, orientation, explanation of auditions Fri: Pre-audition consultations	
2	Tue: Election of Assistant Directors Fri: Auditions	
3	Tue: Auditions (for anyone who couldn't attend last time) Fri: Cast Introductions, then final division of production staff into sections (music & sound, set and lighting etc.)	
4	Tue / Fri: General Meeting followed by cast read-through and staff materials development. (From here on General Meetings will be held in the SP room after which each group will continue their activities in the space available.)	
5	Tue / Fri: General Meeting followed by cast read-through and staff materials development.	
6	Tue / Fri: General Meeting followed by cast read-through and staff materials development.	
7	Tue / Fri: General Meeting followed by cast read-through and staff materials development.	

8	Tue / Fri: General Meeting followed by cast read-through and staff materials development.	
9	Tue / Fri: General Meeting followed by cast read-through and staff materials development.	
10	Tue / Fri: General Meeting followed by cast read-through and staff materials development.	
11	Tue / Fri: General Meeting followed by cast read-through and staff materials development.	
12	Tue / Fri: General Meeting followed by cast read-through and staff materials development.	
13	Tue / Fri: General Meeting followed by cast read-through and staff materials development.	
14	Tue / Fri: General Meeting followed by cast read-through and staff materials development.	
15	Tue: Presentation by each staff section of plans to date Fri: Preliminary run-through followed by wrap up & planning holiday rehearsals and goals	
16	Tue: General Meeting followed by cast rehearsal, staff materials development and administrative planning. (Although the syllabus accounts for 30 classes, in fact rehearsals will be held on average 5 times a week till performance) Fri: Preliminary run-through	
17	Tue: Reflections and Adjustments following preliminary run-through Fri: General Meeting followed by cast read-through and staff materials development.	
18	Tue: General Meeting followed by cast read-through and staff materials development. Fri: First Half Run	
19	Tue: Reflections and Adjustments following First Half Run Fri: Second Half Run.	
20	Tue: Reflections and Adjustments following Second Half Run Fri: First Dress Rehearsal	
21	Tue: Reflections and Adjustments following 1st Dress Rehearsal Fri: 2nd Dress Rehearsal	
22	Tue: Reflection on 2nd Dress Rehearsal and final adjustments for performance Performance over two days: 11 月 ?日（金）and ?日 （土）	
23	Tue: Appraisal and Reflection. Fri: Prepare for meeting with SP Juniors	
24	Tue: Prepare for meeting with SP Juniors Fri: Development of informative materials to assist the following year's production	
25	Tue / Fri: Development of informative materials to assist the following year's production	

26	Tue / Fri: Development of informative materials to assist the following year's production	
27	Tue / Fri: Development of informative materials to assist the following year's production	
28	Tue / Fri: Development of informative materials to assist the following year's production	
29	Tue / Fri: Development of informative materials to assist the following year's production	
30	Tue / Fri: Tidy up SP room	

受講者へのメッセージやアドバイス	The more you put in, the more you will get out. This is a once-in-a-lifetime chance.		
フィードバックの方法			
成績評価方法、成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価基準
	Positive, supportive and creative attitude	30	
	Results of creative endeavours in the spring semester	30	
	Results of creative endeavours in the final performance	40	
教科書	Hand-outs		
参考文献等	As appropriate during class		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力 (DWCLA10)	創造力　プレゼンテーション力　リーダーシップ、コミュニケーション力、思いやり力、自己管理力		
教員との連絡方法	tmedlock@dwc.doshisha.ac.jp		

同　志　社　女　子　大　学

授業計画（シラバス）原稿　（2019 年度用）

授業コード	158261
科目名	Senior Seminar　I
担当者	小山　薫
キャンパス	今出川
開講期	春学期
時間割	春学期 火曜日　３講時

授業テーマ	異界伝承にみるイギリス―異教文化とキリスト教
授業の概要	「若者の教会ばなれ」がとりざたされる今日にあっても、キリスト教が比類ない影響力を英米文化に与え続けていることは否定のしようもない。そこにルーツをもつ様ざまな概念や思想、風習はいまもイギリス社会のすみずみにまで息づき、それぞれの地域の風土や歴史、国民性に味つけされて、この国の多様性の一端を示してもいる。そしてその鍵となるのは、ケルトを始めとする土着の異教文化だといえよう。教会や美術館で、また街角のパブサインにさえ、異教文化はキリスト教と絶妙に共存、融合し、イギリス文化の大きな特徴となっていることを実感する。 本講座では、イギリスの異界伝承を手がかりに、神、天使、聖人（聖女）に代表されるキリスト教世界の〈光の領域〉を、悪魔、魔女、人魚、妖精、幽霊の出没する〈闇の領域〉とともに分析する。文学や映画、美術、音楽、フェミニズムとの関連を確認しつつ、異界伝承の多面的魅力について知識と理解を深めたい。
到達目標	・英語圏の文学作品やその歴史的変遷について十分な理解力を育成 ・英語圏の国々の文化・歴史・社会についての基礎的な知識の修得 ・イギリスの異界伝承に関する知識（ケルト文化、妖精伝承、人魚伝承など）の修得 ・イギリスのキリスト教文化に関する知識（天使悪魔、悪魔伝承、聖人伝承、魔女伝承など）の修得 ・プリゼンテーション力（デリヴァリー、パワーポイントのスライド作成、ハンドアウト作成）の向上 ・ゼミ論用テキストとテーマ、主要参考資料の決定に至る、着実な準備 ・英語圏の文学作品やその歴史的変遷について十分理解している ・英語圏の国々の文化・歴史・社会についての基礎的な知識をもっている ・言語自体の成り立ちと現代社会におけるその役割について理解している ・統語、語彙、発音など英語と日本語の言語構造のそれぞれの特徴について理解している ・英語と日本語によるコミュニケーションの共通点や相違点について理解している ・社会言語的な観点から文化とコミュニケーションの関係性について理解している
授業方法	講義やグループ発表、ディスカッションをとりまぜた授業となる。十分な予習をして、毎回無遅刻・無欠席で授業参加することが基本となるが、知的好奇心と意欲を持って自主的に学ぶ受講生ならば、成果は大きいはずである。

各回の授業内容		準備学習等の内容
1	・授業オリエンテーション ・グループ発表分担決定 ・グループ発表要領確認	
2	・前年度ゼミ論文サンプル紹介 ・レポート＆コメント用紙書式設定確認	・前回授業の重要点を確認。 ・各自のゼミ論文のテキストとテーマについて、プランを模索。
3	講義：異界伝承の風土としてのイギリス ― ケルトの幻想性をめぐって	・前回授業の重要点を確認。 ・各自のゼミ論文のテキストとテーマについて、プランを模索。
4	講義：サタン ＆ 悪魔 ― その概念と、異教神話との関連	・前回授業の重要点を確認。 ・各自のゼミ論文のテキストとテーマについて、プランを模索。
5	・グループ発表 1：魔女伝承 ・概略とコメント 1（魔女伝承）提出	・グループ発表担当者は、発表準備。 ・他の学生は、授業用プリントを下読みして、概略とコメントを作成。 ・各自のゼミ論文のテキストとテーマについて、プランを模索。

6	・グループ発表 2：妖精伝承 ・概略とコメント 2（妖精伝承）提出	・グループ発表担当者は、発表準備。 ・他の学生は、授業用プリントを下読みして、概略とコメントを作成。 ・ゼミ論文のテキストとテーマについて、自分なりのプランができた学生は、個別に小山にアポイントメント（授業外）を取り、相談。
7	・グループ発表 3：悪魔伝承 ・概略とコメント 3（悪魔伝承）提出	・グループ発表担当者は、発表準備。 ・他の学生は、授業用プリントを下読みして、概略とコメントを作成。 ・ゼミ論文のテキストとテーマについて、自分なりのプランができた学生は、個別に小山にアポイントメント（授業外）を取り、相談。
8	・グループ発表 4：人魚伝承 ・概略とコメント 4（人魚伝承）提出	・グループ発表担当者は、発表準備。 ・他の学生は、授業用プリントを下読みして、概略とコメントを作成。 ・ゼミ論文のテキストとテーマについて、自分なりのプランができた学生は、個別に小山にアポイントメント（授業外）を取り、相談。
9	・概略とコメント 5（聖女伝承）提出	・授業用プリントを下読みして、概略とコメントを作成。 ・ゼミ論文のテキストとテーマについて、自分なりのプランができた学生は、個別に小山にアポイントメント（授業外）を取り、相談。
10	講義：イギリスのキリスト教―歴史概説	・前回授業の重要点を復習。 ・ゼミ論文のテキストとテーマについて、自分なりのプランができた学生は、個別に小山にアポイントメント（授業外）を取り、相談。
11	ポスターセッション準備	・前回授業の重要点を復習。 ・ゼミ論文のテキストとテーマについて、自分なりのプランができた学生は、個別に小山にアポイントメント（授業外）を取り、相談。
12	ポスターセッション準備	春学期授業内容の復習
13	・レポート①作成要領説明 ・引用とパラフレイズに関する説明	春学期授業内容の復習
14	レポート①チェックリストに関する説明	春学期授業内容の復習
15	まとめ	春学期授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス	・授業参加（無遅刻無欠席）はもとより、意欲的積極的に受講し、今後の人生に役立つ、本物の知識を身につけてもらいたい。 ・遅刻や欠席はその都度減点。入院（診断書提出）などの客観的理由がない場合は、欠席は最多で 5 回まで。 ・やむを得ず欠席する場合は、E-mail で小山に連絡してもらいたい。
フィードバックの方法	・コメント（5 回）はその都度採点し、改善点を赤字で示して、翌週返却する。 ・グループ発表については、直後に発表者以外の学生全員がコメント（質問、良かった点、改善点）を言い、小山が総括的なコメントをする。各発表者のデリヴァリー、パワーポイントのスライド作成、ハンドアウト作成などについても、良かった点と改善点を具体的に指摘する。

	評価方法	割合（%）	評価基準
成績評価方法、成績評価基準	授業への参加度	20%	知的好奇心をもって、意欲的積極的に授業（ポスターセッション含む）参加し、授業目標に到達したかを評価。
	グループ発表	10%	各発表者とグループ全体の、デリヴァリー力と、パワーポイントのスライド作成力、ハンドアウト作成力を評価。
	概略とコメント（5 回提出）	40%	テキストのポイントを的確に指摘し、自分なりの分析と解説を自分の言葉で伝えているか。テキストの引用とパラフレイズの区別が明瞭にできているか、を評価。
	学期末試験	30%	春学期授業で学んだ内容の理解度により評価。

教科書	
参考文献等	必要に応じて、授業中に紹介する。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力(DWCLA10)	思考力、プレゼンテーション力、自己管理力
教員との連絡方法	Email やマナビー、オフィスアワーを利用。

同　志　社　女　子　大　学

授業計画（シラバス）原稿　（2019 年度用）

授業コード	158361
科目名	Senior Seminar Ⅱ
担当者	小山　薫
キャンパス	今出川
開講期	秋学期
時間割	秋学期 火曜日 ３講時

授業テーマ	異教文化とキリスト教―ゼミ論文作成
授業の概要	Senior Seminar I で修得した知識（イギリスの歴史、異教文化、キリスト教文化、フェミニズムなど）を土台として、各受講生が個々のテーマにもとづき、科目担当者との意見交換や、クラスでの口頭発表＆ディスカッションをへて、レポート作成と修正を繰り返しつつ、ゼミ論文を完成する。
到達目標	・英語圏の文学作品やその歴史的変遷について十分な理解力を育成 ・英語圏の国々の文化・歴史・社会についての基礎的な知識の修得 ・各自のテキストとテーマに基づいて、「序」→「概略」→「ボディ」→「結論」に至る、効果的なアウトラインを作り、クラスでの個人発表や、指導教員（小山）との意見交換を経て、補筆や修正を加えつつ、少しずつ書き進めて、ゼミ論文を完成 ・参考資料の取り扱いや注記方法に関する、基本ルールの修得 ・自分の考えを自分のことばで、効果的に文字で伝える方法を修得 ・年明けの卒業研究発表会での、プリゼンテーション力（デリヴァリー、パワーポイントのスライド作成）の一層の向上 ・英語圏の文学作品やその歴史的変遷について十分理解している ・英語圏の国々の文化・歴史・社会についての基礎的な知識をもっている ・言語自体の成り立ちと現代社会におけるその役割について理解している ・統語、語彙、発音など英語と日本語の言語構造のそれぞれの特徴について理解している ・英語と日本語によるコミュニケーションの共通点や相違点について理解している ・社会言語的な観点から文化とコミュニケーションの関係性について理解している
授業方法	講義や個人発表、ディスカッションをとりまぜた授業となる。各自、小山とアポイントメント（授業外）をとって意見交換し、ゼミ論文を書き進める一方で、毎回無遅刻・無欠席で授業参加することが基本となるが、知的好奇心と意欲を持って自主的に学ぶ受講生ならば、成果は大きいはずである。

各回の授業内容		準備学習等の内容
1	・秋学期授業オリエンテーション ・レポート①（春学期提出）返却	
2	レポート①：修正確認（全体/個人別）	返却されたレポート①を丁寧に読み、修正の意味を理解した上で、必要な修正を加える
3	レポート② に関する説明	・前回授業の重要点を確認。 ・各自のゼミ論文のアウトラインについて、プランを検討。
4	ゼミ論文（アウトライン作成）に関する説明	・前回授業の重要点を確認。 ・各自のゼミ論文のアウトラインについて、プランを検討。
5	・ゼミ論文：個人別発表 1 ・クラスディスカッション（ハンドアウト確認、質問、意見など）	・個人別発表担当者は、2 週間前にレポート②とアウトラインを提出。→小山のチェックを経て、個人別発表用ハンドアウトを作成。 ・他の学生は、それぞれのペースで論文作成プロセスを進める。
6	・ゼミ論文：個人別発表 2 ・クラスディスカッション（ハンドアウト確認、質問、意見など）	・個人別発表担当者は、2 週間前にレポート②とアウトラインを提出。→小山のチェックを経て、個人別発表用ハンドアウトを作成。 ・他の学生は、それぞれのペースで論文作成プロセスを進める。

7	・ゼミ論文：個人別発表 3 ・クラスディスカッション（ハンドアウト確認、質問、意見など）	・個人別発表担当者は、2 週間前にレポート②とアウトラインを提出。→小山のチェックを経て、個人別発表用ハンドアウトを作成。 ・他の学生は、それぞれのペースで論文作成プロセスを進める。
8	・ゼミ論文：個人別発表 4 ・クラスディスカッション（ハンドアウト確認、質問、意見など）	・個人別発表担当者は、2 週間前にレポート②とアウトラインを提出。→小山のチェックを経て、個人別発表用ハンドアウトを作成。 ・他の学生は、それぞれのペースで論文作成プロセスを進める。
9	・ゼミ論文：個人別発表 5 ・クラスディスカッション（ハンドアウト確認、質問、意見など）	・個人別発表担当者は、2 週間前にレポート②とアウトラインを提出。→小山のチェックを経て、個人別発表用ハンドアウトを作成。 ・他の学生は、それぞれのペースで論文作成プロセスを進める。
10	・ゼミ論文：個人別発表 6 ・クラスディスカッション（ハンドアウト確認、質問、意見など）	・個人別発表担当者は、2 週間前にレポート②とアウトラインを提出。→小山のチェックを経て、個人別発表用ハンドアウトを作成。 ・他の学生は、それぞれのペースで論文作成プロセスを進める。
11	レポート③チェックリストに関する説明	それぞれのペースでそれぞれのペースで論文作成プロセスを進める。
12	卒業研究発表会用パワーポイント・スライド作成に関する説明	それぞれのペースでそれぞれのペースで論文作成プロセスを進める。
13	・レポート③返却 ・レポート③：修正確認（全体/個人別）	卒業研究発表会用パワーポイント・スライド作成
14	卒業研究発表会用パワーポイント・スライド確認	レポート④（返却されたレポート③修正版）を提出。→小山がチェックして返却。→ゼミ論文最終原稿（返却されたレポート④修正版）を提出。
15	・総括	

受講者へのメッセージやアドバイス	・授業参加（無遅刻無欠席）はもとより、意欲的積極的に受講し、今後の人生に役立つ、本物の知識を身につけてもらいたい。 ・遅刻や欠席はその都度減点。入院（診断書提出）などの客観的理由がない場合は、欠席は最多で 5 回まで。 ・やむを得ず欠席する場合は、E-mail で小山に連絡してもらいたい。		
フィードバックの方法	・レポート（4 回）はその都度採点し、改善点を赤字で示して、速やかに返却する。 ・ゼミ論文：個人別発表の折には、授業でのクラスディスカッションを通して、ハンドアウトの改善点を指摘する。		
成績評価方法、成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価基準
	授業への参加度	30%	知的好奇心をもって、意欲的積極的に授業（卒研発表会含む）参加し、授業目標に到達したかを評価。
	レポート（4 回）	70%	論旨の流れが明確で、適切な注記（引用、参照）をほどこしつつ、テーマにそってテキスト分析し、自分なりの考察をしているか、を評価。
教科書			
参考文献等	必要に応じて、授業中に紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力 (DWCLA10)	分析力、思考力、自己管理力		
教員との連絡方法	Email やマナビー、オフィスアワーを利用。		

同　志　社　女　子　大　学

授業計画（シラバス）原稿　（2019 年度用）

授業コード	158262
科目名	Senior Seminar　I
担当者	松村　　延昭
キャンパス	今出川
開講期	春学期
時間割	春学期 木曜日　4 講時

授業テーマ	アメリカン・カルチュラル・スタディーズ
授業の概要	映像作品だけでなく、文学、音楽、テレビ、絵画、写真等の表現媒体を研究することにより、白人男性を中心としたかつてのアメリカ的価値観を見直す視座を得ることにより、多様な観点からアメリカを理解する。
到達目標	* アメリカ文化全般にわたる知識を深める。 * 固定観念にとらわれない柔軟な観点を得る * 自ら関心をもつ項目を定めて、意欲的に研究する * 英米文学基礎ゼミナールで習得したスキルをベースとして発表をし論文を仕上げる
授業方法	講読、発表が中心となるが、AV 教材を利用した講義やディスカッションも行う。

各回の授業内容		準備学習等の内容
1	イントロダクション	シラバスを熟読しておく
2	"The Declaration of Independence"と Letters from an American Farmer に関する講義	前回配布したプリントを読んでおく
3	Democracy in America と"The Gettysburg Address"に関する講義	前回配布したプリントを読んでおく
4	研究発表 1	予定される研究発表の内容を調べておく
5	研究発表 2	予定される研究発表の内容を調べておく
6	研究発表 3	予定される研究発表の内容を調べておく
7	研究発表 4	予定される研究発表の内容を調べておく
8	研究発表 5	予定される研究発表の内容を調べておく
9	研究発表 6	予定される研究発表の内容を調べておく
10	研究発表 7	予定される研究発表の内容を調べておく
11	研究発表 8	予定される研究発表の内容を調べておく
12	ポスターセッション準備	ポスターの確認をしておく
13	ポスターセッション反省会	ポスターセッション時に出た質問と自分の回答をまとめておく
14	ディスカッション 1	指定した短編小説を読んでおく
15	ディスカッション 2	指定した映画をみておく

受講者へのメッセージやアドバイス	・発表前に発表概要を報告する。 ・発表前に時間を計り、パワーポイントの提示時期等を確認しておく。 ・クラスメートの発表に対する意見、質問等を書き発表の次週に提出する。 ・クラスメートの発表タイトルに関する知識をできるだけ得ておく。
フィードバックの方法	各発表に対する評価と意見を書いて提出してもらう。その中から、全体として参考になる意見を次回の授業で紹介する。

	評価方法	割合（%）	評価基準
成績評価方法、成績評価基準	授業への積極的参加	40%	クラスメートの発表に対して積極的に意見を述べているか。事前学習をしっかりとして授業に出席しているか等。
	ポスター発表	40%	発表の内容は充実しているか。発表の工夫はされているか等。
	レポート	20%	自分の考えが文字で正確に表現されているか等。
教科書			
参考文献等	橋本安央 他編訳 『アメリカン・カルチュラル・スタディーズ（第二版）』　　萌書房		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力(DWCLA10)	分析力　思考力　思いやる力		
教員との連絡方法	nmatsumu@dwc.doshisha.ac.jp		

同　志　社　女　子　大　学

授業計画（シラバス）原稿　（2019 年度用）

授業コード	158362
科目名	Senior Seminar II
担当者	松村　　延昭
キャンパス	今出川
開講期	秋学期
時間割	秋学期 木曜日 4 講時

授業テーマ	アメリカン・カルチュラル・スタディーズ
授業の概要	映像作品だけでなく、文学、音楽、テレビ、絵画、写真等の表現媒体を研究することにより、白人男性を中心としたかつてのアメリカ的価値観を見直す視座を得ることにより、多様な観点からアメリカを理解する。
到達目標	* アメリカ文化全般にわたる知識を深める。 * 固定観念にとらわれない柔軟な観点を得る * 自ら関心をもつ項目を定めて、意欲的に研究する * 英米文学基礎ゼミナールで習得したスキルをベースとして発表をし論文を仕上げる
授業方法	講読、発表が中心となるが、AV 教材を利用した講義やディスカッションも行う。

各回の授業内容		準備学習等の内容
1	イントロダクション	シラバスを熟読しておく
2	研究発表の概説	英米文学基礎ゼミナールで習得した発表のスキルを確認しておく
3	研究発表 1	予定される研究発表の内容を調べておく
4	研究発表 2	予定される研究発表の内容を調べておく
5	研究発表 3	予定される研究発表の内容を調べておく
6	研究発表 4	予定される研究発表の内容を調べておく
7	研究発表 5	予定される研究発表の内容を調べておく
8	研究発表 6	予定される研究発表の内容を調べておく
9	研究発表 7	予定される研究発表の内容を調べておく
10	研究発表 8	予定される研究発表の内容を調べておく
11	研究発表 9	予定される研究発表の内容を調べておく
12	研究発表 10	予定される研究発表の内容を調べておく
13	ディスカッション 1＋ 論文執筆指導	指定した作品を読んでおく
14	ディスカッション 2＋ 論文執筆指導	指定した映画をみておく
15	論文執筆指導	添削した論文を修正しておく

受講者へのメッセージやアドバイス	・発表前に発表概要を報告する。 ・発表前に時間を計り、パワーポイントの提示時期等を確認しておく。 ・クラスメートの発表に対する意見、質問等を書き発表の次週に提出する。 ・クラスメートの発表タイトルに関する知識をできるだけ得ておく。
フィードバックの方法	各発表に対する評価と意見を書いて提出してもらう。その中から、全体として参考になる意見を次回の授業で紹介する。

成績評価方法、成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価基準
	授業への積極的参加	40%	クラスメートの発表に対して積極的に意見を述べているか。事前学習をしっかりとして授業に出席しているか等
	口頭発表	30%	発表の内容は充実しているか。発表の工夫はされているか等。
	論文	30%	発表時にだた意見は活かされているか、添削したポイントは修正されているか等。

教科書	
参考文献等	橋本安央 他編訳 『アメリカン・カルチュラル・スタディーズ（第二版)』　　萌書房
獲得が期待される基礎的・汎用的能力(DWCLA10)	分析力　思考力　思いやる力
教員との連絡方法	nmatsumu@dwc.doshisha.ac.jp

同　志　社　女　子　大　学

授業計画（シラバス）原稿　（2019 年度用）

授業コード	158263
科目名	Senior Seminar　I
担当者	玉田　　佳子
キャンパス	今出川
開講期	春学期
時間割	春学期 火曜日　３講時

授業テーマ	ジェイン・オースティン研究
授業の概要	この十数年間ジェイン・オースティンの作品は映画化されたり（『プライドと偏見』、『いつか晴れた日に』等）、ＢＢＣでドラマ化されたり（『高慢と偏見』）、あるいは作者をヒロインとした映画が作られたり（『ジェイン・オースティン：秘められた恋』）、パロディー作品が作られたり、（『高慢と偏見とゾンビ』）、世界的にジェイン・オースティン・ブームがずっと続いている。それほど劇的な恋愛があるわけでもなく、ヒロインたちが紆余曲折を経ながら結婚にたどり着くハピーエンドのオースティン・ワールドが、時空を超えて２１世紀の私達に訴えかけるどんな魅力を持っているのだろうか？当時の時代背景を踏まえながら、作品講読を通して、ヒロインたちの人生観や結婚観などを中心に、現代女性の行き方に通じるヒロインたちの魅力を探っていく。なお、個人研究として当時のイギリス文化について研究してもよい。
到達目標	（１）１８世紀の英語で書かれた文学作品をちゃんと読破すること。 （２）１８世紀イギリスの時代背景を理解すること。 （３）各自卒業研究のテーマを決めて、研究概要をポスターセッションで発表すること。
授業方法	授業は作品の講読を中心に進めていくが、各自が研究書などを参考にして、自分の研究テーマを見つける。

各回の授業内容		準備学習等の内容
1	イントロダクション 作品の時代背景、作者、作品についての概要を説明する	卒業研究の対象作品の概要についての復習
2	Pride and Prejudice に関する Video を見る	授業のための予習　翻訳本の読破
3	原書 Pride and Prejudice を授業で講読しつつ、各自翻訳『高慢と偏見』を読破する	授業のための予習　翻訳本の読破
4	Pride and Prejudice を授業で講読しつつ、各自翻訳『高慢と偏見』を読破する	授業のための予習　翻訳本の読破
5	Pride and Prejudice を授業で講読しつつ、各自卒業研究のテーマを考える	授業のための予習　翻訳本の読破　個人研究のテーマ探し
6	Pride and Prejudice を授業で講読しつつ、各自卒業研究のテーマを考える	授業のための予習　翻訳本の読破　個人研究のテーマ探し
7	Pride and Prejudice を授業で講読しつつ、各自卒業研究のテーマを考える	授業のための予習　翻訳本の読破　個人研究のテーマ探し
8	Pride and Prejudice を授業で講読しつつ、各自卒業研究のテーマを考える	授業のための予習　翻訳本の読破　個人研究のテーマ探し
9	Pride and Prejudice を授業で講読しつつ、卒業研究のテーマを決定する	授業のための予習　個人研究のテーマの絞り込み
10	Pride and Prejudice を授業で講読しつつ、卒業研究のテーマを調整する	授業のための予習　個人研究のテーマの絞り込み
11	Pride and Prejudice を授業で講読しつつ、ポスターセッションの準備をする	授業のための予習　個人研究のテーマをポスターセッション用に構成
12	ポスターセッションの予行演習	ポスターセッションに参加　個人発表　他の人の発表の傾聴

13	卒業研究のテーマを確定する	個人研究のテーマの再確認
14	秋学期の個人発表の準備	個人研究のテーマの再確認
15	まとめ	学期末試験の準備 夏休み中か、ゼミ合宿での卒業研究の中間発表

受講者へのメッセージやアドバイス	（１）毎回、作品の予習をして授業に臨むこと。 （２）早いうちに個人研究のテーマを見つけること、自分が前のめりになって取り組めるような、自分が本当に研究したいテーマを見つけられるかどうかが、この１年の鍵となる。		
フィードバックの方法	（１）個人研究のテーマ決定の相談にのる。 （２）提出された個人研究のテーマに、適当なアドバイスをして返却する。 （３）卒業研究の中間発表を聞いてアドバイスする。		
成績評価方法、成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価基準
	学期末試験	４０％	作品の内容がちゃんと理解できているか
	ポスターセッションの発表	２０％	自分の研究が伝わる発表ができたか
	提出物	１０％	個人研究のテーマ探しに真面目に取り組んでいるか
	受講態度（出席・予習・積極性）	３０％	授業に真面目に取り組んでいるか
教科書	Jane Austen, *Pride and Prejudice* (Penguin)		
参考文献等	最初の授業時に参考文献リストを配布する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力 (DWCLA10)	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理力、自己実現力		
教員との連絡方法	ライン、E-mail、電話		

同　志　社　女　子　大　学

授業計画（シラバス）原稿　（2019 年度用）

授業コード	158363
科目名	Senior Seminar Ⅱ
担当者	玉田　　佳子
キャンパス	今出川
開講期	秋学期
時間割	秋学期 火曜日 ３講時

授業テーマ	ジェイン・オースティン研究
授業の概要	この十数年間ジェイン・オースティンの作品は映画化されたり（『プライドと偏見』、『いつか晴れた日に』等）、ＢＢＣでドラマ化されたり（『高慢と偏見』）、あるいは作者をヒロインとした映画が作られたり（『ジェイン・オースティン：秘められた恋』）、パロディー作品が作られたり、（『高慢と偏見とゾンビ』）、世界的にジェイン・オースティン・ブームがずっと続いている。それほど劇的な恋愛があるわけでもなく、ヒロインたちが紆余曲折を経ながら結婚にたどり着くハピーエンドのオースティン・ワールドが、時空を超えて２１世紀の私達に訴えかけるどんな魅力を持っているのだろうか？当時の時代背景を踏まえながら、作品の講読を通して、ヒロインたちの人生観や結婚観などを中心に、現代女性の行き方に通じるヒロインたちの魅力を探っていく。なお、個人研究として当時のイギリス文化について研究してもよい。
到達目標	（１）１８世紀の英語で書かれた文学作品をちゃんと読破すること。 （２）１８世紀イギリスの時代背景を理解すること。 （３）各自卒業研究のテーマを決めて、卒業研究発表会を経て、卒業研究を論文の形で完成させること。
授業方法	授業は、個人研究の発表が中心となるが、発表を元に各自卒業研究の論文の作成に取り組む。

各回の授業内容		準備学習等の内容
1	イントロダクション	個人研究の発表の日程の確認
2	個人発表　作品の講読　VIDEO	授業のための予習　発表の準備
3	個人発表　作品の講読　VIDEO	授業のための予習　発表の準備
4	個人発表　作品の講読　VIDEO	授業のための予習　発表の準備
5	個人発表　作品の講読　VIDEO	授業のための予習　発表の準備
6	個人発表　作品の講読　VIDEO	授業のための予習　発表の準備
7	個人発表　作品の講読　VIDEO	授業のための予習　発表の準備
8	個人発表　作品の講読　VIDEO	授業のための予習　発表の準備
9	論文の作成　作品の講読　VIDEO	授業のための予習　論文の作成
10	論文の作成　作品の講読　VIDEO	授業のための予習　論文の作成
11	論文の作成　作品の講読　VIDEO	授業のための予習　論文の作成
12	論文の作成　卒業研究会発表準備	卒業研究発表会の準備　論文の作成
13	論文の作成　卒業研究会発表準備	卒業研究発表会の準備　論文の作成
14	論文の作成	論文の作成
15	論文の作成	論文の作成

受講者へのメッセージやアドバイス	（１）個人研究のテーマに沿って、充実した論文を完成させてほしい。 （２）論文を書くのにかけた考察と時間と情熱が、論文が完成した時の達成感につながる。
フィードバックの方法	（１）個人研究のテーマをもとに、論文の内容、章立てにアドバイスする。 （２）個人発表を聞いて、参考文献などのアドバイスをする。 （３）論文が完成するまで、何度も添削をする。

成績評価方法、成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価基準
	研究論文	４０％	完成度の高い論文が書けているか
	卒業研究発表会	２０％	自分の研究が伝わる発表であるか
	個人研究の口頭発表	１０％	研究内容がちゃんと整理された発表であるか
	中間発表	１０％	研究の骨子がしっかりわかる発表であるか
	受講態度（出席・予習・積極性）	２０％	授業に真面目に取り組んでいるか
教科書	Jane Austen, *Pride and Prejudice* (Penguin)		
参考文献等	春学期の最初に参考文献リストを配布済み。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力 (DWCLA10)	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力		
教員との連絡方法	ライン、E-mail、電話		

同　志　社　女　子　大　学

授業計画（シラバス）原稿　（2019 年度用）

授業コード	158265
科目名	Senior Seminar　I
担当者	甲元　　洋子
キャンパス	今出川
開講期	春学期
時間割	春学期 木曜日　２講時

授業テーマ	文学を通して見るイギリス	
授業の概要	庭を扱った有名な文学作品を、文学、文化に関する様々な面から分析し考察する。	
到達目標	文学作品に対する理解を深め、知識を増やし、様々な事象を考察し、研究成果を発表する。	
授業方法	主に演習形式で行う。教材資料の内容理解の確認、発表、討論を行い、論文作成の指導も行う。	
各回の授業内容		準備学習等の内容
1	イントロダクション	春休みの間に『秘密の花園』を訳本で読んでおく
2	作品全体の解説　作品研究の進め方の説明	同上
3	作品解読ならびに研究指導	前回の授業の復習　次回の授業で進む範囲を予習 発表者はその準備をする
4	同上	同上
5	同上	同上
6	同上	同上
7	同上	同上
8	同上	同上
9	同上	同上
10	同上	同上
11	ポスターセッションの準備　個人の研究成果をクラスで発表	春学期の授業内容を復習し、ポスターセッションでの発表を視野に入れて研究内容をまとめる
12	同上	同上
13	同上	同上
14	同上	同上
15	まとめ	英文テキストを読み直す
受講者へのメッセージやアドバイス	春休み中に訳本で良いので作品を読んでおくこと。これすら出来ない程、読書が嫌いな人にはこのクラスは向いていません。	
フィードバックの方法	レポートなどは添削して返却する。	

成績評価方法、成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価基準
	レポート	５０％	考察・分析・表現の程度により評価する
	発表	５０％	授業中の発表（３０％）とポスターセッションでの発表（20%）

教科書	F.H. Burnett, The Secret Garden (Penguin Classics)
参考文献等	クラスで指示する
獲得が期待される基礎的・汎用的能力 (DWCLA10)	分析力、思考力、自己管理力
教員との連絡方法	オフィスアワー、Ｅメール： jip@f7.dion.ne.jp と ykohmoto@dwc.doshisha.ac.jp

同　志　社　女　子　大　学

授業計画（シラバス）原稿　（2019 年度用）

授業コード	158365
科目名	Senior Seminar Ⅱ
担当者	甲元　　洋子
キャンパス	今出川
開講期	秋学期
時間割	秋学期 木曜日 ２講時

授業テーマ	文学を通して見るイギリス		
授業の概要	Senior Seminar Ⅰ で学んだ事を元にして、庭に力点を置きながら考察を深化させてゆく。		
到達目標	英文のテキストや資料を読むことにより知識を増やし、英語読解力を更に上げる。各自の研究を更に発展させて卒業研究論文としてまとめ、その中の一部を「卒業研究発表会」で明確に口頭で発表できるようにする。		
授業方法	主に演習形式で行う。教材資料の内容理解の確認、発表、討論を行い、論文作成の指導も行う。		
各回の授業内容			準備学習等の内容
1	イントロダクション		卒業論文作成の準備を夏休み中にしておく。
2	参考文献となる和書、洋書を紹介し、その一部を読む		手渡された資料、特に英文で書かれた物について、予習復習をし、内容の完全理解を目指す。
3	同上		同上
4	同上		同上
5	同上		同上
6	同上		同上
7	同上		同上
8	同上		同上
9	同上		同上
10	同上		同上
11	卒業研究発表の準備と卒業研究論文の指導		1 年の学びを振り返り、マトメの作業を進める
12	同上		同上
13	同上		同上
14	同上		同上
15	同上		同上
受講者へのメッセージやアドバイス	こまめに時間をみつけて英文資料を読んでおくこと。他人まかせにしないこと。		
フィードバックの方法	授業時に課すミニレポートなどは添削して返却する。		
成績評価方法、成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価基準
	卒業研究論文	５０％	思考・分析の深さ、表現や形式の適切さ、参考文献の質で評価
	発表	５０％	卒業研究発表会（２０％）とクラスでの作業（３０％）　発表態度と内容で評価
教科書	F.H. Burnett, The Secret Garden (Penguin Classics)		
参考文献等	クラスで指示する		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力 (DWCLA10)	分析力、思考力、自己管理力		
教員との連絡方法	オフィスアワー、Ｅメール： jip@f7.dion.ne.jp		

同　志　社　女　子　大　学

授業計画（シラバス）原稿　（2019 年度用）

授業コード	158266
科目名	Senior Seminar I
担当者	辻　英子
キャンパス	今出川
開講期	春学期
時間割	春学期　金曜日　3 講時

授業テーマ	戯曲の精読から上演へ―*Our Town* 研究①―
授業の概要	このクラスでは、劇作品をより深く理解し、英語音声表現、および翻訳の能力を高めるため、戯曲を日本語字幕付で上演することを目指す。取り上げる作品はアメリカの劇作家、Thornton Wilder の *Our Town*（『わが町』）である。この作品は、20 世紀初期のアメリカの架空の町を舞台にその住人達のありふれた日常生活を通して、人生の根幹にある普遍的なテーマを追求し、ピューリッツァー賞を受賞した傑作である。場面の状況、登場人物の心の動き、観客への効果を考えながら、劇を訳読後、字幕を作成し、1 月半ばの卒業研究発表会で上演する。
到達目標	・英詩の分析と朗読を通して、英文学の理解を深め、英語の読解力と音声表現力の向上をはかる。 ・英語圏の文学作品やその歴史的変遷について十分理解している。 ・英語圏の国々の文化・歴史・社会についての基礎的な知識を持っている。
授業方法	毎回、一人ずつ順番にテキストの訳のレジメを用意して発表してもらう。また、7 月初旬のポスターセッションに向けて、劇のテーマ、作家の思想や時代背景に関して全員でディスカッションをする。学期末には筆記試験を行う。

各回の授業内容		準備学習等の内容
1	オリエンテーション	
2	テキストの訳読（第 1 幕）	入念な予習、復習をしてから臨んでほしい。授業前にはテキストの和訳と音読練習を必ずすること。授業後は、訳の見直しと、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。何よりも参加学生の積極的な取り組みがなければ成り立たないクラスであることを自覚し、意欲的に学んでほしい。
3	テキストの訳読（第 1 幕）	入念な予習、復習をしてから臨んでほしい。授業前にはテキストの和訳と音読練習を必ずすること。授業後は、訳の見直しと、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。何よりも参加学生の積極的な取り組みがなければ成り立たないクラスであることを自覚し、意欲的に学んでほしい。
4	テキストの訳読（第 1 幕）	入念な予習、復習をしてから臨んでほしい。授業前にはテキストの和訳と音読練習を必ずすること。授業後は、訳の見直しと、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。何よりも参加学生の積極的な取り組みがなければ成り立たないクラスであることを自覚し、意欲的に学んでほしい。
5	テキストの訳読（第 1 幕）	入念な予習、復習をしてから臨んでほしい。授業前にはテキストの和訳と音読練習を必ずすること。授業後は、訳の見直しと、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。何よりも参加学生の積極的な取り組みがなければ成り立たないクラスであることを自覚し、意欲的に学んでほしい。
6	テキストの訳読（第 1 幕）	入念な予習、復習をしてから臨んでほしい。授業前にはテキストの和訳と音読練習を必ずすること。授業後は、訳の見直しと、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。何よりも参加学生の積極的な取り組みがなければ成り立たないクラスであることを自覚し、意欲的に学んでほしい。
7	テキストの訳読（第 2 幕）	入念な予習、復習をしてから臨んでほしい。授業前にはテキストの和訳と音読練習を必ずすること。授業後は、訳の見直しと、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。何よりも参加学生の積極的な取り組みがなければ成り立たないクラスであることを自覚し、意欲的に学んでほしい。

8	テキストの訳読（第 2 幕）	入念な予習、復習をしてから臨んでほしい。授業前にはテキストの和訳と音読練習を必ずすること。授業後は、訳の見直しと、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。何よりも参加学生の積極的な取り組みがなければ成り立たないクラスであることを自覚し、意欲的に学んでほしい。
9	テキストの訳読（第 2 幕）	入念な予習、復習をしてから臨んでほしい。授業前にはテキストの和訳と音読練習を必ずすること。授業後は、訳の見直しと、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。何よりも参加学生の積極的な取り組みがなければ成り立たないクラスであることを自覚し、意欲的に学んでほしい。
10	テキストの訳読（第 2 幕）	入念な予習、復習をしてから臨んでほしい。授業前にはテキストの和訳と音読練習を必ずすること。授業後は、訳の見直しと、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。何よりも参加学生の積極的な取り組みがなければ成り立たないクラスであることを自覚し、意欲的に学んでほしい。
11	テキストの訳読（第 3 幕）	入念な予習、復習をしてから臨んでほしい。授業前にはテキストの和訳と音読練習を必ずすること。授業後は、訳の見直しと、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。何よりも参加学生の積極的な取り組みがなければ成り立たないクラスであることを自覚し、意欲的に学んでほしい。
12	テキストの訳読（第 3 幕）	入念な予習、復習をしてから臨んでほしい。授業前にはテキストの和訳と音読練習を必ずすること。授業後は、訳の見直しと、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。何よりも参加学生の積極的な取り組みがなければ成り立たないクラスであることを自覚し、意欲的に学んでほしい。
13	テキストの訳読（第 3 幕）	入念な予習、復習をしてから臨んでほしい。授業前にはテキストの和訳と音読練習を必ずすること。授業後は、訳の見直しと、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。何よりも参加学生の積極的な取り組みがなければ成り立たないクラスであることを自覚し、意欲的に学んでほしい。
14	テキストの訳読（第 3 幕）	入念な予習、復習をしてから臨んでほしい。授業前にはテキストの和訳と音読練習を必ずすること。授業後は、訳の見直しと、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。何よりも参加学生の積極的な取り組みがなければ成り立たないクラスであることを自覚し、意欲的に学んでほしい。
15	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス	秋学期の舞台上演に向けて、テキストの精緻な読解、時代背景の理解、英語の音声訓練など、授業時間以外の自主的な取り組みが何よりも大切です。各自が自覚を持って積極的に学んでください。		
フィードバックの方法	毎回の授業時におけるハンドアウトを用いた訳読の発表に対して、時間内に訳の修正とコメントを口頭で行う。		
成績評価方法、成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価基準
	学期末試験	50%	授業で学んだことを元に各自で理解を深めたかどうかを評価する。
	発表	30%	作品の理解度（和訳、音読、テーマや手法等）によって評価する。
	授業への参加姿勢	20%	授業への意欲的な参加姿勢を評価する。
教科書	*Our Town*（研究社）		
参考文献等	授業で随時紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力 (DWCLA10)	思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法	htsuji@dwc.doshisha.ac.jp		

同　志　社　女　子　大　学

授業計画（シラバス）原稿　（2019 年度用）

授業コード	158366
科目名	Senior Seminar Ⅱ
担当者	辻　英子
キャンパス	今出川
開講期	秋学期
時間割	秋学期　金曜日　3 講時

授業テーマ	戯曲の精読から上演へ―*Our Town* 研究②―
授業の概要	
到達目標	このクラスでは、劇作品をより深く理解し、英語音声表現、および翻訳の能力を高めるため、戯曲を日本語字幕付で上演することを目指す。取り上げる作品はアメリカの劇作家、Thornton Wilder の *Our Town*（『わが町』）である。この作品は、20 世紀初期のアメリカの架空の町を舞台にその住人達のありふれた日常生活を通して、人生の根幹にある普遍的なテーマを追求し、ピューリッツァー賞を受賞した傑作である。場面の状況、登場人物の心の動き、観客への効果を考えながら、劇を訳読後、字幕を作成し、1 月半ばの卒業研究発表会で上演する。
授業方法	上演のための作業に入っていく。上演用字幕の作成、対訳台本作り（担当者があらかじめ作成した上演用の英語台本に日本語字幕をつけたもの）、及び台詞の読み合わせ練習（グループ）をする。1 月には、全体でのリハーサルを行い、1 月半ばの卒業研究発表会で上演する。また、学期末には、上演を振り返り、各自の学びの成果についてのレポートを提出してもらう。

各回の授業内容		準備学習等の内容
1	オリエンテーション、役割決定	
2	作品のテーマについてのディスカッション	入念な予習、復習をしてから臨んでほしい。授業前には台本の音読練習を必ずすること。授業後は、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。上演に向けては、授業時間外での練習が不可欠である。参加学生の意欲的な取り組みが何よりも望まれる。
3	全体ミーティング、台詞の読み合わせ、及び字幕作成	入念な予習、復習をしてから臨んでほしい。授業前には台本の音読練習を必ずすること。授業後は、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。上演に向けては、授業時間外での練習が不可欠である。参加学生の意欲的な取り組みが何よりも望まれる。
4	全体ミーティング、台詞の読み合わせ、及び字幕作成	入念な予習、復習をしてから臨んでほしい。授業前には台本の音読練習を必ずすること。授業後は、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。上演に向けては、授業時間外での練習が不可欠である。参加学生の意欲的な取り組みが何よりも望まれる。
5	全体ミーティング、台詞の読み合わせ、及び字幕作成	入念な予習、復習をしてから臨んでほしい。授業前には台本の音読練習を必ずすること。授業後は、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。上演に向けては、授業時間外での練習が不可欠である。参加学生の意欲的な取り組みが何よりも望まれる。
6	全体ミーティング、台詞の読み合わせ、及び字幕作成	入念な予習、復習をしてから臨んでほしい。授業前には台本の音読練習を必ずすること。授業後は、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。上演に向けては、授業時間外での練習が不可欠である。参加学生の意欲的な取り組みが何よりも望まれる。

7	全体ミーティング、台詞の読み合わせ、及び字幕作成	入念な予習、復習をしてから臨んでほしい。授業前には台本の音読練習を必ずすること。授業後は、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。上演に向けては、授業時間外での練習が不可欠である。参加学生の意欲的な取り組みが何よりも望まれる。
8	全体ミーティング、台詞の読み合わせ、及び字幕作成	入念な予習、復習をしてから臨んでほしい。授業前には台本の音読練習を必ずすること。授業後は、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。上演に向けては、授業時間外での練習が不可欠である。参加学生の意欲的な取り組みが何よりも望まれる。
9	立ち稽古	入念な予習、復習をしてから臨んでほしい。授業前には台本の音読練習を必ずすること。授業後は、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。上演に向けては、授業時間外での練習が不可欠である。参加学生の意欲的な取り組みが何よりも望まれる。
10	立ち稽古	入念な予習、復習をしてから臨んでほしい。授業前には台本の音読練習を必ずすること。授業後は、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。上演に向けては、授業時間外での練習が不可欠である。参加学生の意欲的な取り組みが何よりも望まれる。
11	立ち稽古	入念な予習、復習をしてから臨んでほしい。授業前には台本の音読練習を必ずすること。授業後は、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。上演に向けては、授業時間外での練習が不可欠である。参加学生の意欲的な取り組みが何よりも望まれる。
12	立ち稽古	入念な予習、復習をしてから臨んでほしい。授業前には台本の音読練習を必ずすること。授業後は、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。上演に向けては、授業時間外での練習が不可欠である。参加学生の意欲的な取り組みが何よりも望まれる。
13	ドレス・リハーサル	
14	ドレス・リハーサル	
15	発表	

受講者へのメッセージやアドバイス	上演に向けては、授業時間外での練習が不可欠です。秋学期は平均して週 3 回放課後に練習します。各自が責任を持って意欲的に取り組んでください。		
フィードバックの方法	日本語字幕作成に関しては、提出された字幕を添削して返却する。演技や演出方法に関しては、適宜、アドバイスとコメントを与える。		
成績評価方法、成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価基準
	レポート	10%	授業で学んだことを元に各自で理解を深めたかどうかを評価する。
	発表	40%	キャストとしての英語表現力、スタッフとしての働きを評価する。
	授業への参加姿勢	30%	授業への意欲的な参加姿勢を評価する。
	字幕作成	20%	日本語への翻訳能力を評価する。
教科書	*Our Town*（研究社）		
参考文献等	授業で随時紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力 (DWCLA10)	創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力		
教員との連絡方法	htsuji@dwc.doshisha.ac.jp		

同　志　社　女　子　大　学

授業計画（シラバス）原稿　（2019 年度用）

授業コード	158267
科目名	Senior Seminar　I
担当者	風間　　末起子
キャンパス	今出川
開講期	春学期
時間割	春学期 火曜日　２講時

授業テーマ	『嵐が丘』から見る１９世紀のイギリス文化
授業の概要	・この授業では、文化研究の材料として小説『嵐が丘』(1847) を使用することによって、19 世紀のイギリス・ヨークシャーを舞台に展開するエミリ・ブロンテの世界を楽しみたい。 ・春学期は、(1)ハワースのエミリ・ブロンテの生涯、(２) 映画化された『嵐が丘』と原作との比較、(3)『嵐が丘』と食器、(4)インテリア小説としの『嵐が丘』、(５) キャサリンとヒースクリフの愛（の謎)、の５つのテーマのもとで学習していく。
到達目標	・英語圏の文学作品やその歴史的変遷について十分理解している。 ・英語圏の国々の文化・歴史・社会についての基礎的な知識を持っている。
授業方法	関連の作品・研究書・文献を使って、発表形式（グループごと）で授業を進めていく。受講生の人数に応じて授業方法を工夫していくが、基本的にはプレゼンテーションとディスカッションを行う。

各回の授業内容		準備学習等の内容
1	授業オリエンテーション	予習は不要
2	発表テーマと発表者を決める。グループ・ミーティング。	各回、発表が当たっていなくても、事前に、テーマごとの参考文献、および小説の関連箇所を読んでおくように。プレゼンの準備のためにグループで事前によく相談し、教員にも相談をすること。
3	テーマ１： エミリ・ブロンテの生涯/ハワースとエミリ作品 *Wuthering Heights* の精読	上記と同じ
4	テーマ１： 発表	上記と同じ
5	テーマ２： 映画化された『嵐が丘』と原作の比較　作品の精読	上記と同じ
6	テーマ２： 発表	上記と同じ
7	テーマ３： 『嵐が丘』の食器　　作品の精読	上記と同じ
8	テーマ３： 発表	上記と同じ
9	テーマ４： インテリア小説としての『嵐が丘』　作品の精読	上記と同じ
10	テーマ４： 発表	上記と同じ
11	前半部のまとめとディスカッション	上記と同じ
12	ポスターセッションの準備	上記と同じ
13	テーマ５： キャサリンとヒースクリフの愛（の謎） 作品の精読	上記と同じ
14	テーマ５： 発表	上記と同じ
15	春学期のまとめ	これまでの復習をしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス	『嵐が丘』は謎の多い作品です。そのため、多くの芸術家の創作意欲をかき立てる作品です。私たちも、謎にせまって、何かを見つけましょう。
フィードバックの方法	レポートは、採点とコメントをして返却する。

	評価方法	割合（%）	評価基準
成績評価方法、成績評価基準	レポート７月に１回提出。 授業発表（30%）、ポスターセッション（20%）、レポート（40%）、出欠席（10%）によって、総合的に評価する。	４０％	アカデミック・スキルズを応用し、先行研究を使用して、分析・解釈などの論理展開をしていることが重要。研究レポートとしてのレベルに達しているかどうかを基準にする。
	授業発表（グループごとのプレゼン）	３０％	アカデミック・スキルズを応用しったプレゼンの方法を踏襲しているかどうかが基準。
	ポスターセッション	２０％	ポスセには全員参加。プレゼンの準備が協力的にできているかどうかが基準。
	授業への積極的参加度	１０％	毎回出席をとる。
教科書	Emily Brontë, *Wuthering Heights* (1847)　(Norton Edtion)		
参考文献等	必要な教材は随時、授業中にプリントを配布する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力 (DWCLA10)	分析力 、思考力、自己実現力		
教員との連絡方法	E メールの連絡、および授業の前後と授業外のアポで対応する。mkazama@dwc.doshisha.ac.jp		

同　志　社　女　子　大　学

授業計画（シラバス）原稿　（2019 年度用）

授業コード	158367
科目名	Senior Seminar Ⅱ
担当者	風間　　末起子
キャンパス	今出川
開講期	秋学期
時間割	秋学期 火曜日 ２講時

授業テーマ	『嵐が丘』から見る１９世紀のイギリス文化
授業の概要	・この授業では、文化研究の材料として小説『嵐が丘』（1847）を使用することによって、19 世紀のイギリス・ヨークシャーを舞台に展開するエミリ・ブロンテの世界を楽しみたい。 ・秋学期は、春学期の続きとして、（６）『嵐が丘』と幽霊/キャサリンの死生観（キリスト教との比較）、（７）シンボルとイメージ、（８）ゴシック小説として読む『嵐が丘』 / Gothic という概念、の３つのテーマのもとで学習していく。
到達目標	・英語圏の文学作品やその歴史的変遷について十分理解している。 ・英語圏の国々の文化・歴史・社会についての基礎的な知識を持っている。
授業方法	関連の作品・研究書・文献を使って、精読と発表形式（グループごと）で授業を進めていく。受講生の人数に応じて授業方法を工夫していくが、基本的にはプレゼンテーションとディスカッションを行う。

各回の授業内容		準備学習等の内容
1	授業オリエンテーション	予習は不要
2	春学期のレポートの講評など	予習は不要
3	テーマ６：『嵐が丘』と幽霊/キャサリンの死生観（キリスト教との比較）作品 *Wuthering Heights* の精読	各回、発表が当たっていなくても、事前に、テーマごとの参考文献、および小説の関連箇所を読んでおくように。プレゼンの準備のためにグループで事前によく相談し、教員にも相談をすること。
4	テーマ６： 発表	上記と同じ
5	テーマ７： シンボルとイメージ/ビクトリア朝の家庭（天国と地獄）, Penistone Crags, Isabella's dog, Gardening at the Heights　作品の精読	上記と同じ
6	テーマ７： 発表	上記と同じ
7	テーマ８： ゴシック小説として読む『嵐が丘』/ゴシックという概念　　作品の精読	上記と同じ
8	テーマ８： 発表	上記と同じ
9	卒業研究発表会の準備	上記と同じ
10	卒業研究発表会の準備	上記と同じ
11	卒業研究発表会の準備	上記と同じ
12	卒業研究発表会の準備	上記と同じ
13	卒業研究発表会の準備	上記と同じ
14	卒業研究発表会の準備	上記と同じ
15	秋学期の総まとめ	これまでの復習をしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス	・『嵐が丘』は謎の多い作品です。そのため、多くの芸術家の創作意欲をかき立てる作品です。私たちも、謎にせまって、何かを見つけましょう。
フィードバックの方法	レポートは、採点とコメントをして返却する。

	評価方法	割合（%）	評価基準
成績評価方法、成績評価基準	レポートを１月初旬に１回提出。その後清書を聖出。	３０％	アカデミック・スキルズを応用し、先行研究を使用して、分析・解釈などの論理展開をしていることが重要。研究レポートとしてのレベルに達しているかどうかを基準にする。
	授業発表（グループごとのプレゼン）	３０％	アカデミック・スキルズを応用しったプレゼンの方法を踏襲しているかどうかが基準。
	卒業研究発表会	３０％	卒研発表会には全員参加。プレゼンの準備が協力的にできているかどうかが基準。
	授業への積極的参加度	１０％	毎回出席をとる。
教科書	Emily Brontë, *Wuthering Heights* (1847)　(Norton Edtion)		
参考文献等	必要な教材は随時、授業中にプリントを配布する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力 (DWCLA10)	分析力 、思考力、自己実現力		
教員との連絡方法	E メールの連絡、および授業の前後と授業外のアポで対応する。mkazama@dwc.doshisha.ac.jp		

同　志　社　女　子　大　学

授業計画（シラバス）原稿　（2019 年度用）

授業コード	158269
科目名	Senior Seminar　I
担当者	若本　　夏美
キャンパス	今出川
開講期	春学期
時間割	春学期　月曜日　４講時

授業テーマ	Researching English as a global lingua franca (iSeminar XIX)
授業の概要	This seminar discusses what learning or teaching **English as a global lingua franca** (EGLF) means and researches this issue in the Japanese context. At the same time, we examine the impact of learners' characteristics such as motivation, culture, aptitude, personality, and so on. This seminar is called "**i-Seminar,**" which indicates internet-seminar or I (me)-seminar. Accordingly, the internet (use of computers, smartphones, LINE, Facetime, Instagram, etc.) is encouraged to be used inside or beyond the session. This seminar will be categorized in the field of **Applied Linguistics** (the study of teaching/learning/using a second/foreign language).
到達目標	Goals of the spring semester are three-fold: (1) to get to know each other; (2) to familiarize themselves with reading English written articles and write critical summaries about them; and (3) to understand the concept of EGLF. At the end of the spring semester, participants are expected to know what they are interested in, that is, their **Research Questions** (RQs) for the thesis. At the same time, participants are expected to acquire solid English proficiency, logical thinking, and beautiful friendship, which will undoubtedly be their assets in their future life and career.
授業方法	Most of the time is allocated to reading relevant journal articles (e.g., ELT Journal) regarding EGLF and Second Language Acquisition so that participants have a solid theoretical foundation in this area. **One journal article is assigned for each session**, which implies that participants read more than ten articles in spring. In the process of reading, participants are expected to find their own RQs for their graduation thesis, which will be presented at the 17th Poster Session of English Department (July, 2019), where each participant presents their RQs in English and obtain feedback from the audience (other students, teachers, and the general public). This seminar is conducted **bilingually** (mainly in English).

各回の授業内容		準備学習等の内容
1	Introduction to seminar and individual expectations	Think about what you expect to this course.
2	Introduction to a graduation thesis	Read the assigned journal.
3	EGLF + Designing a questionnaire	Read the assigned journal.
4	Vocabulary learning + Designing a questionnaire	Read the assigned journal.
5	Attitudes + Designing a questionnaire	Read the assigned journal.
6	Self-efficacy + Complete your questionnaire	Read the assigned journal.
7	Learning contexts and culture + Data collection	Read the assigned journal.
8	Learning contexts amount of Input + Data collection	Read the assigned journal.
9	Motivation + Data collection	Read the assigned journal.
10	Influence of age + Chapter 3	Read the assigned journal.
11	Influence of personality + Chapter 3	Read the assigned journal.
12	Deciding the Research Questions + Chapter 3	Review of the articles.
13	Rehearsing the XVII Poster Presentation + Chapter 2	Review of the articles.
14	Reflecting the XVII Poster Presentation + Chapter 2	Review of the articles.

15	Consolidation of the spring semester + References	Review of the articles.

受講者へのメッセージやアドバイス	Everyone is welcome! Unlike usual years and other seminars, this seminar starts from the senior year. Aiming for a **NICE (Nifty, Innovative, Collaborative, Energetic)** seminar with all the new members, this seminar works hard to complete the best graduation thesis in a year. Although this seminar does not necessarily expect high English proficiency or expertise in foreign language learning/teaching, participants are expected to contribute to making a NICE seminar. This is the DNA of Wakamoto seminar, which runs and has developed since Seminar I. You will be the 19th seminar members. *For further information: (**FAQ**) http://wakamoto.org/wordpress/?p=709 (**Instagram**) https://instagram.com/wakazemi_18th?r=nametag (Instagram@wakazemi_18th) One more thing. Participants are kindly asked not to fill their schedule after the 4th period (e.g., part-time jobs) because the session is frequently extended through the 5th period.
フィードバックの方法	Entries and presentation scores will be returned with comments using Dropbox, Moodle, and Manaba.

成績評価方法、成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価基準
	Entries	30	Based on shared rubrics
	Presentation	30	Based on shared rubrics
	Interactions	40	Based on shared rubrics

教科書	American Psychological Association. (2010). *Publication manual of the American Psychological Association* (6th ed.). Washington, DC: Author.
参考文献等	Shown in class.
獲得が期待される基礎的・汎用的能力 (DWCLA10)	思考力、思いやる力、自己管理力
教員との連絡方法	E-mail: nwakamot@dwc.doshisha.ac.jp

同　志　社　女　子　大　学

授業計画（シラバス）原稿　（2019 年度用）

授業コード	158369
科目名	Senior Seminar Ⅱ
担当者	若本　　夏美
キャンパス	今出川
開講期	秋学期
時間割	秋学期　月曜日　４講時

授業テーマ	Writing a graduation thesis on issues of English as a global lingua franca (iSeminar XIX)
授業の概要	This seminar discusses what learning or teaching English as a global lingua franca (EGLF) means and researches this issue in the Japanese context. At the same time, we examine the impact of learners' characteristics shown such as motivation, culture, aptitude, personality, and so on. This seminar is called "**iSeminar,**" which indicates internet-seminar or I (me)-seminar. Accordingly, the internet (use of computers, smartphones, LINE, Facetime, Instagram, etc.) is encouraged to be used inside or beyond the session.
到達目標	Goals of the spring semester are three-fold: (1) to actually conduct their own research (data collection and their analysis); (2) to establish supportive surroundings; and (3) to **write a good graduation thesis**. At the end of the autumn semester, participants are expected to find ways of collecting/processing/synthesizing data, know the answers to their Research Questions and to write a thesis in English. At the same time, participants are expected to acquire solid English proficiency, logical thinking, and beautiful friendship, which will undoubtedly be their assets in their future career and life.
授業方法	Most of the time is allocated to discussions on **how to write a good thesis**, workshops on it, and participants' presentations so that all the participants could submit their theses by **due time (December 20, 2019)**. Participants have several opportunities to present the chapters of their thesis. To facilitate the process of writing the thesis, we will take several approaches (e.g., utilizing study groups or the internet). The thesis is to be written following the APA 6th edition. The thesis is to be presented at the 17th Bachelor Thesis Presentations of the English Department (January 2020). Statistical software (SPSS 26) is also used. This seminar is conducted **bilingually** (mainly in English).

各回の授業内容		準備学習等の内容
1	Introduction to the autumn semester.	Think about what you expect to this course.
2	Presenting Chapter 2 & 3 (A)　+ Data processing	Work on their own (thesis) draft.
3	Presenting Chapter 2 & 3 (B)　+ Data processing	Work on their own (thesis) draft.
4	Workshop: Data processing, Tables and Figures	Read the designated pages of the APA.
5	Presenting Chapter 4 (A)　+ Discussion	Work on their own (thesis) draft.
6	Presenting Chapter 4 (B)　+ Discussion	Work on their own (thesis) draft.
7	Workshop: Contents, Footnotes	Read the designated pages of the APA.
8	Presenting Chapter 5 & 6 (A)　+ Conclusion	Work on their own (thesis) draft.
9	Presenting Chapter 5 & 6 (B)　+ Appendix	Work on their own (thesis) draft.
10	Workshop: Face Validity	Read the designated pages of the APA.
11	Workshop: Acknowledgement	Read the designated pages of the APA.
12	Finish and submit theses	Have a proper preparation for the due date.
13	Rehearsing for the Graduation Thesis Presentation	Spend time for the rehearsal.
14	Reflecting the XVII Graduation Thesis Presentation	Spend time for the rehearsal.
15	Consolidation of the course	Reflect what you have achieved

<table>
<tr><td>受講者へのメッセージやアドバイス</td><td colspan="3">Everyone is welcome! Unlike usual years and other seminars, this seminar starts from the senior year. Aiming for a NICE (Nifty, Innovative, Collaborative, Energetic) seminar with all the new members, this seminar works hard to complete the best graduation thesis in a year. Although this seminar does not necessarily expect high English proficiency or expertise in foreign language learning/teaching, participants are expected to contribute to making a NICE seminar. This is the DNA of Wakamoto seminar, which runs and has developed since Seminar I. You will be the 19th seminar members. *For further information:
(FAQ) http://wakamoto.org/wordpress/?p=709
(Instagram) https://instagram.com/wakazemi_18th?r=nametag (Instagram@wakazemi_18th)
One more thing. Participants are kindly asked not to fill their schedule after the 4th period (e.g., part-time jobs) because the session is frequently extended through the 5th period.</td></tr>
<tr><td>フィードバックの方法</td><td colspan="3">Drafts will be returned with comments using Dropbox, Moodle, and Manaba.</td></tr>
<tr><td rowspan="2">成績評価方法、成績評価基準</td><td>評価方法</td><td>割合（%）</td><td>評価基準</td></tr>
<tr><td>Thesis</td><td>100</td><td>The process and attitudes of making the thesis, and the quality of the submitted thesis</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="3">American Psychological Association. (2010). Publication manual of the American Psychological Association (6th ed.). Washington, DC: Author.</td></tr>
<tr><td>参考文献等</td><td colspan="3">Shown in class.</td></tr>
<tr><td>獲得が期待される基礎的・汎用的能力 (DWCLA10)</td><td colspan="3">プレゼンテーション力、自己管理力、自己実現力</td></tr>
<tr><td>教員との連絡方法</td><td colspan="3">E-mail: nwakamot@dwc.doshisha.ac.jp</td></tr>
</table>

同　志　社　女　子　大　学

授業計画（シラバス）原稿　（2019 年度用）

授業コード	158270
科目名	Senior Seminar　I
担当者	今井　　由美子
キャンパス	今出川
開講期	春学期
時間割	春学期 金曜日　２講時

授業テーマ	Research on Aspects of the Role of Sound in Language
授業の概要	このコースでは、Junior Seminar I & II をさらに発展させ、言語音についてゼミ生ひとりひとりが研究テーマを設定し、その研究成果を論文としてまとめることを目標とする。言語は我々の生活に不可欠なものであり、言語は音声そのものである。そのためこのコースでの学びにより phonetics, phonology, sociolinguistics, psycholinguistics, language acquisition, language processing など、さまざまな分野へと興味が拡がることを期待する。
到達目標	個人の卒業研究テーマに基づき準備をすすめ、卒業論文を完成させる。 ・与えられたデータ（音声）と向き合い、そこに隠れている音韻ルールを見つけることができるようになる ・英語と日本語のそれぞれの言語構造の特徴について理解できるようになる ・言語に関する社会問題や異文化に対する強い関心を持つことができるようになる ・自らの意見や考えを分かりやすく表現できる力を身につける ・ゼミを通して、自らの置かれた立場での役割・責任、リーダーシップを発揮しようとする意欲を高めることができるようになる
授業方法	このコースは、Senior Seminar II において卒業論文を完成させるための基盤となるところの課題提出、発表、ディスカッションを中心に行い、ゼミ生のリサーチ・トピックにおける知識や理解を確認する。また、ゼミ生間の親睦を深めるため、ゼミ合宿（夏期休暇中）を行う。

各回の授業内容		準備学習等の内容
1	オリエンテーション	
2	リサーチについて中間報告およびディスカッション（1）	発表準備
3	リサーチについて中間報告およびディスカッション（2）	発表準備
4	リサーチについて中間報告およびディスカッション（3）	発表準備
5	論文のスタイルを知る（1）	課題①
6	論文のスタイルを知る（2）	課題②
7	リサーチ計画をまとめる（1）	リサーチ計画提出
8	リサーチ計画をまとめる（2）	リサーチ計画提出
9	先行研究を探す（1）	先行研究をまとめる
10	先行研究を探す（2）	先行研究をまとめる
11	ポスターセッション・リハーサル（1）	発表準備
12	ポスターセッション・リハーサル（2）	発表準備
13	ポスターセッション・リハーサル（3）	発表準備
14	ポスターセッション参加	
15	Senior Seminar II にむけて Senior Seminar I を振り返る	

受講者へのメッセージやアドバイス	
フィードバックの方法	ゼミにおけるディスカッションや個人面談を通し、リサーチテーマについて調査を進めていく

	評価方法	割合（%）	評価基準
成績評価方法、成績評価基準	卒業研究準備への取り組む姿勢・態度、ゼミへの協力・貢献	30	リサーチへ取り組む姿勢、学生間の相互協力など評価に加える
	課題提出・発表	50	課題の提出、発表（内容・態度）など評価に加える
	その他	20	
教科書	向後千春、『18 歳からの「大人の学び」基本講座』（2016）北大路書房		
参考文献等	1. 小塩真司、質問紙調査の手順、2009、ナカニシヤ出版 2. 藤本壱、Excel でできるらくらく統計解析、2011、自由国民社 3. American Psychological Association、Publication Manual of the American Psychological Association, 6th edition. 2009 4. ゾルダン・ドルニュイ、外国語教育学のための質問紙調査入門、2009、松柏社 5. 向後千春、18 歳からの「大人の学び」基礎講座、2016、北大路書房		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力 (DWCLA10)	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理力、自己実現力		
教員との連絡方法	オフィス・アワーまたは email にて連絡をとること		

同　志　社　女　子　大　学

授業計画（シラバス）原稿　（2019 年度用）

授業コード	158370
科目名	Senior Seminar Ⅱ
担当者	今井　　由美子
キャンパス	今出川
開講期	秋学期
時間割	秋学期 金曜日 ２講時

授業テーマ	Research on Aspects of the Role of Sound in Language
授業の概要	このコースでは、Junior Seminar I & II をさらに発展させ、Senior Seminar I で設定した研究テーマに基づき、その研究成果を論文としてまとめることを目標とする。言語は我々の生活に不可欠なものであり、言語は音声そのものである。そのためこのコースでの学びにより phonetics, phonology, sociolinguistics, psycholinguistics, language acquisition, language processing など、受講生がさまざまな分野へと興味を広げることを期待する。
到達目標	個人の卒業研究テーマに基づき準備をすすめ、卒業論文を完成させる。 ・与えられたデータ（音声）と向き合い、そこに隠れている音韻ルールを見つけることができるようになる ・英語と日本語のそれぞれの言語構造の特徴について理解できるようになる ・言語に関する社会問題や異文化に対する強い関心を持つことができるようになる ・自らの意見や考えを分かりやすく表現できる力を身につける ・ゼミを通して、自らの置かれた立場での役割・責任、リーダーシップを発揮しようとする意欲を高めることができるようになる
授業方法	このコースは、Senior Seminar I において計画・準備したものを踏まえ、個々のリサーチを進める。課題提出、発表、ディスカッションを通し、ゼミ生のリサーチ・トピックにおける知識や理解を確認する。まら、ゼミ生間の親睦を深めるため、ゼミ合宿を行うこともある。

各回の授業内容		準備学習等の内容
1	オリエンテーション	
2	中間発表（1）	発表準備
3	中間発表（2）	発表準備
4	中間発表（3）	発表準備
5	「はじめに」	期日までにピア・チェックを行いドラフトを提出
6	「先行研究」	期日までにピア・チェックを行いドラフトを提出
7	「実験・調査」	期日までにピア・チェックを行いドラフトを提出
8	「結果」	期日までにピア・チェックを行いドラフトを提出
9	「考察」	期日までにピア・チェックを行いドラフトを提出
10	「まとめ」および「引用文献」	期日までにピア・チェックを行いドラフトを提出
11	最終チェック～論文提出	草稿提出
12	卒論発表リハーサル（1）	
13	卒論発表リハーサル（2）	
14	卒論発表リハーサル（3）	
15	卒業論文集のための最終原稿提出	最終原稿提出
受講者へのメッセージやアドバイス	計画的に物事を進めていこう。	
フィードバックの方法	ゼミにおけるディスカッションや個人面談を通し、リサーチテーマについて調査を進めていく	

	評価方法	割合（%）	評価基準
成績評価方法、成績評価基準	卒業研究準備への取り組む姿勢・態度、ゼミへの協力・貢献	20	リサーチへ取り組む姿勢、学生間の相互協力など評価に加える
	卒業論文	80	卒業論文は、内容、質の高さおよび形式を評価の対象とする
教科書	向後千春、『18 歳からの「大人の学び」基本講座』（2016）北大路書房		
参考文献等	1. 小塩真司、質問紙調査の手順、2009、ナカニシヤ出版 2. 藤本壱、Excel でできるらくらく統計解析、2011、自由国民社 3. American Psychological Association、Publication Manual of the American Psychological Association, 6th edition.　2009 4. ゾルダン・ドルニュイ、外国語教育学のための質問紙調査入門、2009、松柏社 5. 向後千春、18 歳からの「大人の学び」基礎講座、2016、北大路書房		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力 (DWCLA10)	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理力、自己実現力		
教員との連絡方法	オフィス・アワーまたは email にて連絡をとること		

同　志　社　女　子　大　学

授業計画（シラバス）原稿　（2019 年度用）

授業コード	158271
科目名	Senior Seminar　I
担当者	北尾　キャスリーン
キャンパス	今出川
開講期	春学期
時間割	春学期 火曜日 2 講時

授業テーマ	Interpersonal Communication
授業の概要	In this course, we will cover various aspects of interpersonal communication, that is, communication between people in friendships and family relationships, as well as proposing a research projects related to interpersonal communication, including participating in the poster session.
到達目標	Gaining a deeper understanding of interpersonal communication and its application to daily life.
授業方法	Students will read about interpersonal communication, discuss what they have read, and work on research projects. They will also participate in a poster session about their research at the end of the spring semester.

各回の授業内容		準備学習等の内容
1	Listening and communication 1	none
2	Listening and communication 2	Read passage and answer questions.
3	Listening and communication 3	Reading passage and answering questions; answer discussion questions.
4	Interpersonal Relationships 1	Read passage and answer questions.
5	Interpersonal Relationships 2	Read passage and answer questions.
6	Interpersonal Relationships 3	Reading passage and answering questions; answer discussion questions.
7	Small Group Communication 1	Read passage and answer questions.
8	Small Group Communication 2	Read passage and answer questions.
9	Small Group Communication 3	Read passage and answer questions; answer discussion questions.
10	Mediated Communication 1	Read passage and answer questions.
11	Discussion of topics for posters	Think about topics for posters
12	Mediated Communication 2	Read passage and answer questions.
13	Mediated Communication 3	Reading passage and answering questions; answer discussion questions
14	Mediated Communication 4	
15	Work on posters	

受講者へのメッセージやアドバイス	The order or length of these topics may change, depending on changing situations		
フィードバックの方法	Comments and guidance on papers		
成績評価方法、成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価基準
	Homework	70	Demonstration of understanding and application of what was learned
	Test(s)	30	Demonstration of understanding and application of what was learned
教科書			

参考文献等	
獲得が期待される基礎的・汎用的能力(DWCLA10)	分析力，思考力，自己実現力
教員との連絡方法	kkitao217@yahoo.com

同　志　社　女　子　大　学

授業計画（シラバス）原稿　（2019 年度用）

授業コード	158371
科目名	Senior Seminar Ⅱ
担当者	北尾　キャスリーン
キャンパス	今出川
開講期	秋学期
時間割	秋学期 火曜日 2 講時

授業テーマ	Interpersonal Communication		
授業の概要	In this course, we will cover various aspects of interpersonal communication, that is, communication between people in friendships and family relationships, as well as proposing a research projects related to interpersonal communication, including participating in the poster session.		
到達目標	Gaining a deeper understanding of interpersonal communication and its application to daily life.		
授業方法	Students will read about interpersonal communication, discuss what they have read, and work on research projects. They will also participate in a poster session about their research at the end of the spring semester.		
各回の授業内容			準備学習等の内容
1	Graduation Thesis 1		none
2	Emotional Intelligence, Attraction, and Interpersonal Communication 1		Reading passage and answering questions.
3	Emotional Intelligence, Attraction, and Interpersonal Communication 2		Reading passage and answering questions; answer discussion questions.
4	Research Design 1		Reading passage and answering questions.
5	Research Design 2		Reading passage and answering questions.
6	Writing a Research Paper 1		Reading passage and answering questions.
7	Writing a Research Paper 2		Reading passage and answering questions.
8	Statistics		none
9	Graduation Thesis 2		Work on graduation thesis.
10	Graduation Thesis 3		Work on graduation thesis.
11	Graduation Thesis 4		Work on graduation thesis.
12	Graduation Thesis 5		Work on graduation thesis.
13	Graduation Thesis 6		Work on graduation thesis.
14	Graduation Thesis 7		Work on graduation thesis.
15	Preparing for Presentations		Work on graduation thesis.
受講者へのメッセージやアドバイス			
フィードバックの方法	Discussing the work they are doing on the thesis		
成績評価方法、成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価基準
	Homework	60	Application of what they have learned to their lives
	Graduation thesis	70	Research design, application of statistics, conclusions from results, etc.
	Test(s)	20	Application of what they have learned to their lives
教科書			
参考文献等			

獲得が期待される基礎的・汎用的能力(DWCLA10)	分析力，思考力，自己実現力
教員との連絡方法	kkitao217@yahoo.com

同　志　社　女　子　大　学

授業計画（シラバス）原稿　（2019 年度用）

授業コード	158272
科目名	Senior Seminar　I
担当者	﨑　　ミチ・アン
キャンパス	今出川
開講期	春学期
時間割	春学期 火曜日　３講時

授業テーマ	Intercultural communication, competency and conflict
授業の概要	This course will expose students to topics of intercultural communication such as diversity, education, gender and other related genres. This course also aims to train students to write academic research papers and make formal academic presentations.
到達目標	A wide range of topics on intercultural communication will be discussed and studied in class. Further discussion of these topics will be made through group work, oral presentations and written assignments. Students must write a final report and do an oral presentation at the end of the course.
授業方法	(1) Students will explore and examine topics on intercultural communication and competency (2) Students will be learn to analyze and think critically about different topics and social issues. (3) Students will learn about the world around them from a different perspective.

各回の授業内容		準備学習等の内容
1	Introduction to course, explanation of syllabus, class expectations	Written assignment
2	Research paper writing, Source research workshop at library	Written assignment
3	Research paper writing, Intercultural Communication Part II, group discussion, written assignments	Written assignment
4	Research paper writing, Intercultural Communication Part III, group discussion, written assignments	Written assignment
5	Research paper writing, Intercultural Competencies, Part I, group discussion, written assignments	Written assignment
6	Research writing, Intercultural Competencies, Part II, group discussion, written assignments	Written assignment
7	Research writing, Intercultural Competencies, Part III, group discussion, written assignments	Prepare for mid-term assignment
8	Mid-term Assignment, Peer feedback	
9	Research paper writing, Poster Presentations, Individual Consultation	Preparing for presentations, final written assignment
10	Research paper writing, Poster Presentations, Individual Consultation	Preparing for presentations, final written assignment
11	Research paper writing, Poster Presentations, Individual Consultation	Preparing for presentations, final written assignment
12	Final Presentation Preparation, Individual student evaluation and consultation	Preparing for presentations, final written assignment
13	Final Presentation Preparation, Individual student evaluation and consultation	Preparing for presentations, final written assignment
14	Final Assignments, Peer feedback	
15	Final Assignments, Peer feedback	

受講者へのメッセージやアドバイス	This seminar is conducted all in English, and students are expected to have a relatively high level of English proficiency and motivation to be able to be successful in this class. **Please note that students are expected to attend field work as well as the Senior Seminar retreat.** Dates, locations, topics and assignments for the field work and retreat will be announced in the first two weeks of classes.		
フィードバックの方法	Individual evaluation and feedback from instructor. One-on-one consultations with instructor.		
成績評価方法、成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価基準
	Class participation, attitude, motivation	30	
	written assignments, group work, mini-presentations	30	
	Mid-term and Final presentations and assignments	40	
教科書	no textbook is required for this course.		
参考文献等	Jackson, J., Introducing Language and Intercultural Communication, 2014, Routledge, New York		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力 (DWCLA10)	分析力，思考力，プレゼテーション力、コミュニケーション能力		
教員との連絡方法	The instructor will notify students about contact information during the first class.		

同　志　社　女　子　大　学

授業計画（シラバス）原稿　（2019 年度用）

授業コード	158372
科目名	Senior Seminar Ⅱ
担当者	﨑　　ミチ・アン
キャンパス	今出川
開講期	秋学期
時間割	秋学期 火曜日　３講時

授業テーマ	Intercultural communication, competency and conflict
授業の概要	This course will expose students to topics on intercultural communication and competency, as well as to train students to write academic research papers and make formal academic presentations. A wide range of topics on intercultural communication will be discussed and studied in class. Further discussion of these topics will be made through group work, oral presentations and written assignments. Students must write a final report and do an oral presentation at the end of the course.
到達目標	(1) Students will explore and examine topics on intercultural communication and social diversity (2) Students will practice analytical skills and critical thinking (3) Students will learn about the different societies around them from various perspectives
授業方法	The class will be conducted through group discussion and project-learning. The students will be exposed to different types of information through media (film, news, short film clips)　and assigned readings from books and academic journals.

各回の授業内容		準備学習等の内容
1	Orientation, course expectations, schedule	review notes, reading / writing assignments
2	Research paper writing review, research methods	review notes, reading / writing assignments
3	Data Collection	review notes, reading / writing assignments
4	Writing your Methodology	review notes, reading / writing assignments
5	Writing your Methodology	review notes, reading / writing assignments
6	Diversity and Conflict Part I, in-class assessment	review notes, reading / writing assignments
7	Individual Consultations (research topic, methodology, research design, data analysis)	Research paper writing
8	Diversity and conflict Part II, in-class assessment	Research paper writing
9	Diversity and conflict Part III, in-class assessment	Research paper writing
10	Writing your Results, Discussion, Conclusion	Preparation for Graduation Thesis Exhibition
11	Writing your Results, Discussion, Conclusion	Preparation for Graduation Thesis Exhibition
12	Individual student consultations, research paper writing	Preparation for Graduation Thesis Exhibition
13	Individual student consultations, research paper writing	Research paper writing
14	Final presentations, peer feedback	Research paper writing
15	Submission of Graduation Thesis, final presentations peer feedback	

受講者へのメッセージやアドバイス	This seminar is conducted all in English, and students are expected to have a relatively high level of English proficiency, discipline and motivation to be able to be successful in this class.
フィードバックの方法	Individual evaluation and feedback from instructor. One-on-one consultations with instructor.

	評価方法	割合（%）	評価基準
成績評価方法、成績評価基準	Class participation, attitude, motivation	30	
	written assignments, group work, mini-presentations	30	
	Mid-term and Final presentations and assignments	40	
教科書	There is no textbook assigned for this course.		
参考文献等	Jackson, J., Introducing Language and Intercultural Communication, 2014, Routledge, New York.		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力 (DWCLA10)	分析力，思考力，プレゼテーション力、コミュニケーション能力		
教員との連絡方法	The instructor will notify students about contact information during the first class.		

同　志　社　女　子　大　学

授業計画（シラバス）原稿　（2019 年度用）

授業コード	814962 , 814963,
科目名	教育実習Ａ（事前・事後指導を含む）
担当者	今井　　由美子、大塚　　朝美
キャンパス	今出川
開講期	通年
時間割	春学期 火曜日 １講時 秋学期 火曜日 １講時 春学期 木曜日 ２講時 秋学期 木曜日 ２講時

授業テーマ	未来の教師としての第一歩、教育実習を成功させよう
授業の概要	教育実習
到達目標	１） 実習生として英語科指導を実地に行うために必要な留意事項や心構えを学ぶ ２） これまでに学んだ英語科教科教育法の知識及び学習指導案作成方法を再確認する ３） オリエンテーション（中学校現役教員および高等学校現役教員による教育実践、同和・人権教育、性教育）により教育現場の実情を理解する（全 5 回：日程の都合上、3 年次に前倒しで行う） 実習中 １） 指導教諭の下、真摯な態度で実習に臨む ２） 教育現場における実習経験を通し、教師として求められる知識、技能、態度、教育精神を学ぶ 実習後 １） 実習報告書作成やポスターセッション・卒論発表に参加することにより、各自の体験をまとめる作業を通し、教師として必要とされる知識、技能、態度、教育精神を再確認する ２） 他の実習経験者及び３年生教職課程履修生との交流を通し、各自の体験を客観的に捉える 各回の授業内容：実習前 １） 教育実習の意義と実習生としての心構え、留意事項を講義する ２） 模擬授業（個人、30 分程度、ビデオ撮影あり） を実施し、授業体験と振り返りを行う 実習中 １） 実習校における２～３週間の教育実習を行う ２） 実習簿及び実習報告書の記入、提出をする 実習後 １） 大学指定の報告書提出と、授業において実習報告（個人、10 分程度、ポスター作成）を行う ２） 教育実習経験を、英語英文科ポスターセッション（7 月） または卒業研究発表会（1 月）で参加・発表する ３） 教育実習経験、使用した学習指導案・資料等を整理し、「Viva! 教育実習」に記録としてまとめる ４） 実習校より実習簿および実習評価を受け取った後、個人面談を行う
授業方法	教育科学における理論と実践の結合である教育実習が中心となる。実習前後には、実践的認識を深め、教職に関して自己啓発を促すための準備と内省を行う。

各回の授業内容		準備学習等の内容
1	オリエンテーション、実習における留意事項及び心構え、模擬授業日時決定	
2	模擬授業（1）と評価・振り返り	模擬授業リハーサル
3	模擬授業（2）と評価・振り返り	模擬授業リハーサル
4	模擬授業（3）と評価・振り返り	模擬授業リハーサル
5	模擬授業（4）と評価・振り返り	模擬授業リハーサル
6	模擬授業（5）と評価・振り返り	模擬授業リハーサル

7	模擬授業（6）と評価・振り返り	模擬授業リハーサル
8	模擬授業（7）と評価・振り返り	模擬授業リハーサル
9	模擬授業（8）と評価・振り返り	模擬授業リハーサル
10	教育実習の実習報告・振り返り（1）	ポスター作成
11	教育実習の実習報告・振り返り（2）	ポスター作成
12	教育実習の実習報告・振り返り（3）	ポスター作成
13	教育実習の実習報告・振り返り（4） 秋実習予定者模擬授業（1）	ポスター作成 模擬授業リハーサル
14	教育実習の実習報告・振り返り（5） 秋実習予定者模擬授業（2）	ポスター作成 模擬授業リハーサル
15	教育実習の実習報告・振り返り（6） 秋実習予定者模擬授業（3）	ポスター作成 模擬授業リハーサル

受講者へのメッセージやアドバイス	
フィードバックの方法	模擬授業を振り返り考えたことを「教職課程のあゆみ」に記入する。 教育実習において経験したこと、学んだことを「教職課程のあゆみ」に記入する。

	評価方法	割合（%）	評価基準
成績評価方法、成績評価基準	実習前の模擬授業および振り返りレポート	10	模擬授業および振り返りレポートを評価する
	実習校における評価	60	実習校での評価を、評価の一部とする
	実習報告書、実習簿、教職課程のあゆみ、実習報告など	30	提出物、発表内容などを評価する

教科書	これまでの英語科教科教育法で使用したテキストおよび中高等学校用英語テキストを利用する
参考文献等	
獲得が期待される基礎的・汎用的能力 (DWCLA10)	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法	yimai@dwc.doshisha.ac.jp オフィス・アワーまたは email にて連絡をとること

同　志　社　女　子　大　学

授業計画（シラバス）原稿　（2019 年度用）

授業コード	815462 , 815463,
科目名	教育実習 B（事前・事後指導を含む）
担当者	今井　　由美子、大塚　　朝美
キャンパス	今出川
開講期	通年
時間割	春学期 火曜日 １講時 秋学期 火曜日 １講時 春学期 木曜日 ２講時 秋学期 木曜日 ２講時

授業テーマ	未来の教師としての第一歩、教育実習を成功させよう
授業の概要	教育実習
到達目標	１） 実習生として英語科指導を実地に行うために必要な留意事項や心構えを学ぶ ２） これまでに学んだ英語科教科教育法の知識及び学習指導案作成方法を再確認する ３） オリエンテーション（中学校現役教員および高等学校現役教員による教育実践、同和・人権教育、性教育）により教育現場の実情を理解する（全 5 回：日程の都合上、3 年次に前倒しで行う） 実習中 １） 指導教諭の下、真摯な態度で実習に臨む ２） 教育現場における実習経験を通し、教師として求められる知識、技能、態度、教育精神を学ぶ 実習後 １） 実習報告書作成やポスターセッション・卒論発表に参加することにより、各自の体験をまとめる作業を通し、教師として必要とされる知識、技能、態度、教育精神を再確認する ２） 他の実習経験者及び３年生教職課程履修生との交流を通し、各自の体験を客観的に捉える 各回の授業内容：実習前 １） 教育実習の意義と実習生としての心構え、留意事項を講義する ２） 模擬授業（個人、30 分程度、ビデオ撮影あり） を実施し、授業体験と振り返りを行う 実習中 １） 実習校における２～３週間の教育実習を行う ２） 実習簿及び実習報告書の記入、提出をする 実習後 １） 大学指定の報告書提出と、授業において実習報告（個人、10 分程度、ポスター作成）を行う ２） 教育実習経験を、英語英文科ポスターセッション（7 月） または卒業研究発表会（1 月）で参加・発表する ３） 教育実習経験、使用した学習指導案・資料等を整理し、「Viva! 教育実習」に記録としてまとめる ４） 実習校より実習簿および実習評価を受け取った後、個人面談を行う
授業方法	教育科学における理論と実践の結合である教育実習が中心となる。実習前後には、実践的認識を深め、教職に関して自己啓発を促すための準備と内省を行う。

各回の授業内容		準備学習等の内容
1	オリエンテーション、実習における留意事項及び心構え、模擬授業日時決定	
2	模擬授業（1）と評価・振り返り	模擬授業リハーサル
3	模擬授業（2）と評価・振り返り	模擬授業リハーサル
4	模擬授業（3）と評価・振り返り	模擬授業リハーサル
5	模擬授業（4）と評価・振り返り	模擬授業リハーサル
6	模擬授業（5）と評価・振り返り	模擬授業リハーサル

7	模擬授業（6）と評価・振り返り	模擬授業リハーサル
8	模擬授業（7）と評価・振り返り	模擬授業リハーサル
9	模擬授業（8）と評価・振り返り	模擬授業リハーサル
10	教育実習の実習報告・振り返り（1）	ポスター作成
11	教育実習の実習報告・振り返り（2）	ポスター作成
12	教育実習の実習報告・振り返り（3）	ポスター作成
13	教育実習の実習報告・振り返り（4） 秋実習予定者模擬授業（1）	ポスター作成 模擬授業リハーサル
14	教育実習の実習報告・振り返り（5） 秋実習予定者模擬授業（2）	ポスター作成 模擬授業リハーサル
15	教育実習の実習報告・振り返り（6） 秋実習予定者模擬授業（3）	ポスター作成 模擬授業リハーサル

受講者へのメッセージやアドバイス	
フィードバックの方法	模擬授業を振り返り考えたことを「教職課程のあゆみ」に記入する。 教育実習において経験したこと、学んだことを「教職課程のあゆみ」に記入する。

	評価方法	割合（%）	評価基準
成績評価方法、成績評価基準	実習前の模擬授業および振り返りレポート	10	模擬授業および振り返りレポートを評価する
	実習校における評価	60	実習校での評価を、評価の一部とする
	実習報告書、実習簿、教職課程のあゆみ、実習報告など	30	提出物、発表内容などを評価する

教科書	これまでの英語科教科教育法で使用したテキストおよび中高等学校用英語テキストを利用する
参考文献等	
獲得が期待される基礎的・汎用的能力 (DWCLA10)	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法	yimai@dwc.doshisha.ac.jp オフィス・アワーまたは email にて連絡をとること

同　志　社　女　子　大　学

授業計画（シラバス）原稿　（2019 年度用）

授業コード	820461, 820462
科目名	教職実践演習（中・高）
担当者	大塚　　朝美、今井　　由美子
キャンパス	今出川
開講期	秋学期
時間割	秋学期 木曜日 ３講時 秋学期 金曜日 ３講時

授業テーマ	未来の教員としてのさらなる資質能力の向上をめざして
授業の概要	教職課程履修における振り返りを行う。
到達目標	教職課程の授業および教職課程外での諸活動を通し、「教職課程履修のあゆみ」、「教育実習簿」の記録、ディスカッションやゲストスピーカーによる講義（講演） などをもとに、4 年間の大学での学びを総合的に振り返る。本科目の履修を通し、教職に就く上での自己課題の確認、将来に向けての目標の設定を行う。
授業方法	グループによる話し合い・発表などを取り入れ、教職課程履修を振り返る。

各回の授業内容		準備学習等の内容
1	オリエンテーション　授業の進め方	
2	「教職課程履修のあゆみ」を用いて振り返り	
3	教育実習　振り返り(1)（テーマ：教科書分析)、まとめ、発表	「教職課程履修のあゆみ」、教育実習簿、実習中に作成した指導案、教材プリントなどを整理し、振り返るための材料とする
4	教育実習　振り返り(2)（テーマ：指導案作成と授業)、まとめ、発表	「教職課程履修のあゆみ」、教育実習簿、実習中に作成した指導案、教材プリントなどを整理し、振り返るための材料とする
5	教育実習　振り返り(3)（テーマ：教材作成)、まとめ、発表	「教職課程履修のあゆみ」、教育実習簿、実習中に作成した指導案、教材プリントなどを整理し、振り返るための材料とする
6	教育実習　振り返り(4)（テーマ：生徒への対応、先生方との連携)、まとめ、発表	「教職課程履修のあゆみ」、教育実習簿、実習中に作成した指導案、教材プリントなどを整理し、振り返るための材料とする
7	教育実習　振り返り(5)（テーマ：実習生としての諸問題への対応)、まとめ、発表	「教職課程履修のあゆみ」、教育実習簿、実習中に作成した指導案、教材プリントなどを整理し、振り返るための材料とする
8	教育実習　振り返り(6)（テーマ:教職課程を履修することの意義)、まとめ、発表	「教職課程履修のあゆみ」、教育実習簿、実習中に作成した指導案、教材プリントなどを整理し、振り返るための材料とする
9	ビデオ教材を用いて　「教師の役割とは」(1)	
10	ビデオ教材を用いて　「教師の役割とは」(2)	
11	ビデオ教材を用いて　「教師の役割とは」(3)	
12	教育実習の記録冊子完成（『Viva! 教育実習』配布予定）	編集委員を中心に教育実習の記録をまとめた冊子を完成させる
13	卒業論文発表会参加（振り替え）	秋実習生および春のポスターセッションにて実習報告ができなかった者は、卒業論文発表会にて、教育実習報告（ポスター発表）を行う。
14	ゲストスピーカー（高等学校教諭）を迎えての講義または講演会（2019 年 2 月実施分として振り替え）	

15	ゲストスピーカー（中学校教諭）を迎えての講義または講演会（2019 年 2 月実施分として振り替え）		
受講者へのメッセージやアドバイス			
フィードバックの方法			
成績評価方法、成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価基準
	「教職課程履修のあゆみ」の利用方法および内容	30	教職課程履修の記録をまとめた「あゆみ」を評価の一部とする。
	授業における積極的な参加・協力	20	
	振り返りに関する発表、課題提出、教職講演会レポート提出	50	
教科書			
参考文献等			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力 (DWCLA10)	分析力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理力、自己実現力		
教員との連絡方法	オフィス・アワーまたは email にて連絡をとること		